

川場村の植物相について（予報）－川場村誌資料に向けて

大森威宏^{1,2}・阿部利夫²

群馬県利根郡川場村は、沼田市と片品村、みなかみ町に囲まれた面積 85km² の村で、南北に薄根川が流れ海拔は 400m から 2158m（武尊山）の範囲に位置する。武尊山は村の北端に位置し、山頂付近は北西季節風の影響を受けて多雪であり、南面の沢は開析を受けて深い溪谷を形成している。また、村の東縁には武尊山前衛の山から赤倉山、田代山、雨乞山につらなる山脈があり、村の地形は薄根川とその支流である桜川にそって水田耕作地となる緩傾斜地がある以外は全体的に急峻な山地が卓越している。

川場村では 2014 年から 2016 年まで村誌の編纂のための現地調査が行われ、2018 年に発行される村誌の中で植物分布の解説とともに植物目録が作成され、あわせて証拠標本一覧が web 上で公表される予定である。また 2016 年には武尊山の川場村側で群馬県によって良好な自然環境を有する地域学術調査（以下県調査）が実施され、本地域の植物相や植生解明に大きな成果があった。川場村誌の植物目録は、川場村誌調査や県調査の証拠標本に加えて、過去に採集された群馬県立自然史博物館収蔵標本とサイエンスミュージアムネットに公表された国立科学博物館収蔵標本を再検討して作成される予定である。

2016 年 12 月 20 日現在、川場村から記録された種子植物とシダ植物（ヒカゲノカズラ植物を含む）は 138 科 1160 種で、このほか 14 亜種、47 変種、20 雑種が記録された。種・亜種・変種の合計は 1221 分類群（以下種類と呼ぶ）であった。なお、川場村の外来植物は 100 種類であった。今回の川場村誌及び県調査の結果、オオユリワサビ、ウスイロオクノカンスゲ、コツブアメリカヤガミスゲが群馬県から初めて記録された。また、過去に標本を伴う記録のないコミヤマヌカボ、群馬県の記録が疑問視されていたキンスゲ、群馬県立自然史博物館に県内産の標本はあるが未発表であるオクウスギタンポポが調査期間中に記録された。過去の標本も含め川場村から記録された群馬県の絶滅危惧種は 38 種類で、うち 9 種類は環境省の絶滅危惧種にも指定されている。川場村から記録された植物のうち 74 種類は日本海側に偏って分布するものであるのに対して 73 種類は太平洋側に偏って分布するものであった。特にシラネアオイやミヤマシシガシラ、タテヤマウツボグサなどの極端な積雪量の地域に分布が限定される植物も確認された。武尊山系からは北方系のチシマヨモギやサッポロスゲ、ハクセンナズナなどが記録された反面、群馬県では南部の平野部を中心に生育するオオヒメワラビやヤワラシダ、フジカンゾウなども記録された。これらのことから、川場村は日本海側と太平洋側の植物の接点になっていることに加えて、武尊山が北方系の種や極端な多雪地の植物の生育地として重要な役割を果たし、さらに薄根川に沿って暖地の植物が侵入してきたと考えられる。このような背景から川場村は多様な植物の分布の接点として重要な地域であることが推測された。

キーワード： 川場村、植物相、太平洋側、日本海側、分布限界、標本

(1:群馬県立自然史博物館, 2:川場村誌編纂委員会)